



「大切な心の種」
 デパートの中でかた高いところの泣き声が聞こえてきました。ああ、おもちや売り場かな？ 駄々をこねているのかな？ と思いつつ近づいてみると、男の子が頬を涙で濡らして泣きながら、おもちやに何かを言っています。
 「お母さん！ お母さん！ 今日お見ただけだよねー！ 今日お見ただけだよねー！」と、何度も何度も泣き叫びながら、おもちやから、絞り出すような声で叫んでいます。そこには母親の姿はありませんでした。そこにはお母さんとお父さんと約束して来たのでしょ？」「お母さん、おもちやは買わないからね、見ただけだよ。」
 それを承知でデパートに来たのですが、大好きなおもちやを目の前ですべて、喉から手が出そうなるくらい欲しくなったのでしょ？」「お母さん、今日お見ただけだよねー！ 見ただけだよねー！」という叫びは、誘惑に負けそうになっている自分と、必死になって闘っているように見えます。
 こんな幼い子が、自分の欲望に負けまいと、心にブレーキをかけているのです。
 おもちや売り場の物陰に困っ

「大切な心の種」



「報徳のおしえ」と「心」

た表情で、じつとその子を見つめているお母さんらしき人の姿を見ることができませんでした。
 「我慢させられる親」とは、このようなお母さんの努力なくしてはできないのでしょ？。
 このことは、その子の成長に大きく大切な心の種を蒔いてあげたと思います。
 「我慢させられる親」「叱れる親」「共感できる親」そして、親は子どもと一緒に成長していかなければならないと思います。



この地球を大切に、豊かで綺麗なまま残していくことは、私たちの子どもを大切にすることであり、それが人の道でもあります。
 『私たちは、子孫の土地を借りて暮らしている』と書いて、この大地を大切にす人たちがいます。
 また、『自分が生きているうちに立派な林にならぬことは分かっていても、親は子のために樹を植えつけるのである。目先の欲だけで働くのは動物である。後世の子孫のために徳の種を蒔くのが、人の人たる所以である』と尊徳が言っています。「報徳一日一訓」より引用

昔時く木の実 大木となりにつけり
 今時く木の実 後の大木ぞ

役場前尊徳像歌碑

未来からの訪問者である子どもたちや、そして会うことのない未来の子孫たちのために、「徳」の種を蒔いていきましょう。大きく育つ意味ある種を蒔きましょう。
 将来、
 未来に生きぬく
 子どもたちのために。
 人として！

「徳」の種を蒔こう

人は誰しも、今、自分が必要とするものは懸命に取り組みます。
 今の世の中に役立てるために、木を切り家を建てることは当然のことです。
 しかし、私たちが暮らしているこの地球は、十年後、三十年後、百年後、あるいはそれよりもっと後には、全く会ったことのない私たちの子孫が暮らしています。



子ども報徳訓

- 至誠 真心をもち 明るい人になります
 勤労 進んで働き 努力する人になります
 分度 よく考え きまりを守るひとになります
 推譲 ゆずり合い 助け合う人になります

問合せ先 教育委員会社会教育係 ☎ (579) 5801

ジヤネット号! GO!



英語指導助手のジヤネットさんのエッセイ

カナダ人にとっての新年は、日本と同じように1月1日から始まります。ですが学生やその親、そして先生にとっての新年は、新しい学年が始まる9月最初の火曜日です。

私にとって、9月は過去に何があったか、これからの未来に何が起きるかなどをたくさん考える月でもあります。

長男は経営学を学んでいる大学で、最後の修士課程とホッケーのシーズンが始まりました。来年彼がどんな職業を選ぶのが、楽しみです。次男は、3年制の法律学校へ入学しました。私は1年後、カナダで英語の教師になりたいと思っています。

豊頃へ来て、1年が経ちました。来日当初、とても不思議に感じていたことに慣れてきました。右ハンドルで左側の道路を運転していること。

私の真下で地面がゆらゆら揺れる地震にも驚かなくなりました。

今やスーパーに行っても、Google 翻訳を使うことはめったにありません。GPS を使わずに帯広の目的地まで行けます。教科の名前は覚えましたが、仕事に聞こえてくる会話の一部を聞き取ることもできるようになりました。よく使われている日本語の読み方も学びました。残念な事に、学んだ言葉の一つに「ミサイル」という単語もあります。

カナダでは、涼しくなり、山火事の蔓延は防がれました。まだ延焼しているところもありますが、もう広がることはないでしょう。ロッキー山脈の近くにある街では、すでに初雪が降ったようです。

サマーランドの果樹園では、これから梨やりんごが収穫されます。ぶどう園でも、収穫が始まります。豊頃では、地元産のきゅうりやズッキーニ、トマト、ししとう、とうもろこしなどをおいしくいただいています。

テーブルの上には花のブーケを飾っており、それを見るたびに微笑んでいます。

